

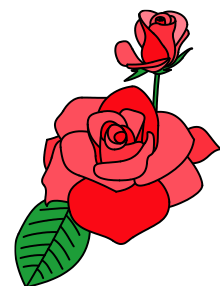
吉賀中だより

令和7年6月3日
吉賀町立吉賀中学校
(文責：城市)

令和7年度 学校教育目標

「**自他を大切にし、共に自らの可能性を広げる生徒の育成**」

ゴールデンウィークが終わったと思っているうちにあっという間に6月です。爽やかな風が吹き抜ける季節が終わり梅雨の時季が近づいてきました。とはいえ、夏を思わせる暑い日もあり眩しい日差しに目を細める日々です。校庭や山々の木々の若葉は伸び伸びと茂り、今週は二十四節気の「芒種（ぼうしゅ）」。時候の挨拶には「麦秋（ばくしゅう）」が使われる季節になりました。校舎の軒下には今年もツバメたちが飛来し、巣作りを終え子作りに励んでいます。今年もいよいよ初夏がやってきました。



中学校はこの時期は運動部の大会が真っ盛りの季節です。毎週のように大会や練習試合が組まれ、6月4日・5日は中体連益田ブロック総体です。ソフトテニス部も野球部も、3年生にとっては中学校生活最後のブロック総体ですので、各部ともこれまで培った練習の成果を発揮しようと練習に熱が入っています。

授業公開日・つなぐ(保護者会)総会・学級懇談会・部活動保護者会 ありがとうございました

大変遅くなりましたが、4月28日（月）は授業公開日でした（本校では、原則毎月最終水曜日を1時間目から終日全ての授業を公開する授業公開日としています。ただし、6月は学校行事の関係で18日（水）としています。）。この日は午後の保護者会総会に合わせ、5校時にはたくさんの保護者の皆様の参観があり、生徒も先生もいつもより少し緊張ぎみに見えました。保護者の皆様には、総会後の学級懇談会及び部活動保護者会にもご参加いただきました。お忙しい中ありがとうございました。お陰様で今年度の諸活動について、とても有意義な話し合いがもたれた様子です。

授業公開日は、保護者の皆様だけでなく地域の皆様にも公開しています。地域の皆様にも、少しの時間でも構いませんのでお時間がありましたらどうぞご来校・ご参観ください。

学校いじめ防止基本方針について

保護者総会において、本校の本年度学校いじめ防止基本方針（昨年度改訂）についてお話をさせていただきました（学校HPにも改訂版を掲載しておりますのでご覧ください）。全国のおいじめによる痛ましい内容が度々報道されていますが、いじめはどの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であるにとらえています。全ての児童生徒に関係する問題ですので、本校においても学校の内外を問わずいじめが行われなくなるように、また、素早く対応ができるように、学校、保護者、地域社会が連携していじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでいく必要があると考えています。

保護者・地域の皆様におかれましても、些細な変化や気になることがありましたら、遠慮なくお知らせ下さい。私たち大人は、子どもたちを育むということにおいて学校のみならず家庭・地域を含む社会が総がかりで、次代を築く子どもたちの育ちを支えていくという役割と責任があると考えています。ご協力のほどよろしくお願いいたします

生徒総会を開催しました

5月16日（金）には、今年度始めの生徒総会を開催しました。執行部、委員会各委員長、学級委員による事前の打ち合わせや学級生徒会を経て、今年度の活動計画や予算案の審議を行いました。吉賀中学校の生徒総会の特徴は、「ありがとうございました」という言葉にあります。昨年度もびっくりしたのですが、今年度は30分あまりの総会の間に、37回もの「ありがとうございました」が聞かれました。質問者や答弁者がお互いを尊重し感謝し合う言葉の行き来は、見ていてとても気持ちの良いものでした。1年生からもたくさんの意見や質問があり、一つ一つの質問や意見に会長や各委員長、会計担当者が丁寧に回答を返していました。

～令和7年度生徒会スローガン～

唯一無二（ゆいいつむに）

今年度の生徒会スローガンは「唯一無二」。これは、全校生徒の関わりを増やしていく中で、自分らしさを忘れず一人一人の個性が活かされた学校を作っていきたいという執行部の思いが込められています。生徒お互いが互いの個性や良さを認め合い、充実した学校生活を送っていけるように期待しています。



各種大会頑張っています

◇益田オープン個人ソフトテニス大会（5／3 益田市庭球場）
・ ペア 予選リーグ1位通過 決勝トーナメント 2回戦敗退 ベスト8

◇石西野球大会（5／3 益田市民球場）
1回戦 吉賀中 0－10 横田中

◇石見地区ソフトテニス選手権大会（5／10 江津中央公園テニスコート）
・ ペア 2回戦敗退 ベスト32
・ ペア 2回戦敗退 ベスト32

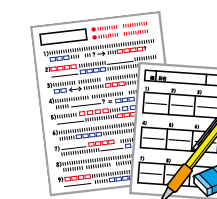
◇益田オープン団体ソフトテニス大会〈女子の部〉（5／25 益田市庭球場）
予選リーグ 吉賀中 2－1 益田中B
吉賀中 1－2 高津中A 予選リーグ2位（雨天のため決勝リーグは中止）
※同男子大会（5／24）は雨天のため中止になりました

中間テストも頑張りました

5月19日（月）、20日（火）は、1学期中間テストでした。進級して初めての定期テストでしたが、特に1年生は中学校での初めての定期テストです。部活動を休みにしての5日間のテスト期間がありましたが、テスト準備には計画的に取り組めたでしょうか？また、5月15日、17日、18日の3日間は、町教育委員会主催で「よしか塾 in 吉中 定期テスト勉強会」を七日市公民館で開催していただきました。多くの生徒が参加して熱心にテスト勉強に取り組んだようですので、その成果も表れたのでしょうか？

各学年の教科毎の平均点を掲載します（既に個人成績表で確認していると思いますが）。改めて各自で苦手な分野を見直し、日々の家庭学習で復習をして克服をめざしておきましょう。また、今回の取組の仕方についても振り返り、今後の家庭学習やテスト勉強に活かしていきます。

学年平均(点)	国語	社会	数学	理科	英語
1年生	76.9	49.6	71.1	65.2	69.4
2年生	70.7	68.5	57.8	60.7	50.5
3年生	73.8	52.9	56.0	53.0	51.5



町学力調査の結果です

4月18日（金）に実施した、町学力調査の結果についてもお知らせします。初めてのタブレットを使用しての調査でしたので、扱いに不慣れだったということもあったと思いますが、残念ながら1年生も2年生も全教科で町全体の平均点をかなり下回りました（本校は少人数なので本校の平均点は掲載できません。ご了承ください。）。調査を受けた1・2年生の生徒には、既に個人成績表を返却していますので、それぞれの弱みや苦手分野の克服のための「フォローアップドリル」に取り組んでみてください。個人成績表のQRコードからアプリに入り、「ふくしゅうサポート」から「フォローアップドリル」で学習ができます。是非活用して力をアップさせていきましょう。なお、3年生の全国学力調査結果は7月後半に返却されます。

町学年平均点(点)	国語	社会	数学	理科	英語
吉賀町1年生平均点	46.8	50.9	46.5	52.0	49.1
吉賀町2年生平均点	55.0	55.2	52.1	59.5	57.2

そこで

家勉ノートを活用しよう！

家庭学習への見通しをもち、一人一人の生徒が自分にとってより良い学習方法について考え、しっかりと学習に取り組む事ができるよう、今年度も「家勉ノート」（いえべんノート）の取組を始めました。

家勉ノートは、

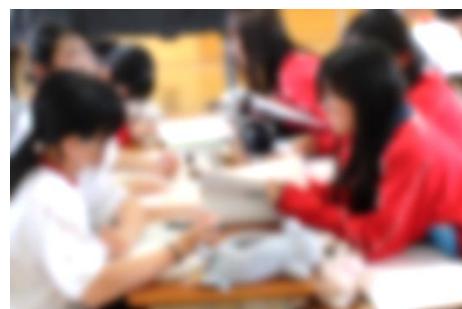
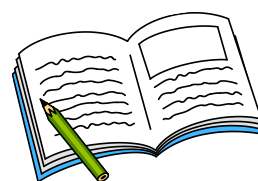
- ①毎日1ページ以上取り組む
- ②「学習の手引き」を参考にして国・社・数・理・英の5教科の学習に取り組む
- ③職員室前の廊下にある学習プリントを利用しても良い
- ④土日祝日等の休日でも取り組む
- ⑤毎朝登校後に職員室前の提出ボックスに提出する 等

の約束で、5月28日（水）から取組を始めました。提出したノートは、12名の教員が分担を決め毎日チェックやアドバイスを行います。勿論、校長・教頭も参加しています。早速、翌29日（木）から家勉ノートの提出が始まりました。

今年度の取組を始めるにあたり、5月28日（水）の4校時に全校生徒で「家勉集会」を開きました。全校が縦割りグループに別れ、2・3年生が「家庭学習の手引き」を元にした、自分の家勉ノートを見せたりして、1年生に家勉ノートへの取組の仕方や取組の留意点等を直接アドバイスしました。アドバイスをした2・3年生にとっても、自らの取組のあり方を考え取組への意欲を高める良いきっかけになった様子です。

これまでの全国学力調査や県学力調査などの結果から、家庭学習と学力には強い相関関係が認められています。最近では最も学力向上の成果が表れやすいのは、毎日の家庭学習時間が1時間30分～2時間30分程度とされています。勿論、個人差や内容により違いがありますので一概には言えませんが、毎日最低1時間以上の家庭学習時間を取り、家庭学習に継続的に取り組んで欲しいと思います。

家勉ノートは、ノートを作ることが目的ではありません。家勉ノートに取り組むことで毎日



の家庭学習習慣の醸成と学力向上をめざしています。取り組んだらすぐに成果が見えるものではありませんが、コツコツと着実に力をつけていきましょう。そして、この取組の成果が6月23日～24日の1学期期末テストで表れることを楽しみにしています。

ホスピタリティ・マインド

3年生がもうすぐ修学旅行です。東京への行き帰りに飛行機を利用します。で、私の飛行機搭乗時の経験を掲載します。今回は、昨年度の学校だより10月号で記載した「共有体験と感情交流」についての記事の時（羽田空港発、萩・石見空港行きの飛行機に搭乗した際、萩・石見空港の荒天・強風のため3度の着陸を試みた結果、萩・石見空港への着陸を断念し急遽宇部空港に着陸した体験に基づいた記事です）のもう一つの体験談です。

その時搭乗していた飛行機は、萩・石見空港への着陸態勢に入った途端に凄まじい強風で上下左右に激しく揺れ、乗客の皆さんはとてつもない恐怖感を味わったと思いますが、私はこの時それをほとんど恐怖としては感じていませんでした。時々落ちるという感じの凄まじい揺れで、気持ちが悪くなるほどでしたが、なぜか私の心は「恐怖感」よりも「安心感」が支配していました。それは、「墜落することはないだろう」という安心感ではありません。内心「ひょっとしたら墜落するかも知れない」とは思っていました。しかし、私の心の中は「恐怖感」ではなく「安心感」が支配していたのです。

この「安心感」は既に搭乗時から芽生えていました。飛行機が羽田空港の離陸滑走路に向かう移動途中の機内で、キャビンアテンダント(CA)による救命胴着着用の説明が行われたのですが、その時のCAの笑顔が柔らかくとてもにこやかで親近感を持ちました。つくり笑顔ではなく、「私たちが目的地まで皆さんと一緒に責任を持って行きますから、どうぞご安心ください」という温かいメッセージが、柔らかな笑顔から伝わってきていました。その時には、「気持ちのいい笑顔だな」くらいにしか思わなかったのですが、羽田空港を飛び立ってからの立ち居振る舞いには本当に感心しました。「乗客が第一」「乗客本位」とでも表現したらよいのでしょうか。心底私たち乗客に寄り添い、丁寧に乗客に接してくれました。

そしていざ、萩・石見空港への着陸態勢の中で機体がとてつもない大きな揺れを繰り返しながらも、その立ち居振る舞いは全く変わりません。彼らは専用シートにシートベルトをして客席を向いて着席しているのですが、ずっと柔らかい笑顔で乗客を見守ってくれています。適宜機内アナウンスで、今の状況や今後のチャレンジなどを機長と共に丁寧に伝えてくれたのも安心感をもたせてくれた要因だと思います。「この方たちクルーが精一杯やってくれている。この方たちとなら安心できる。このまま墜落したとしても、精一杯努力してくれているこの方たちと一緒になら仕方があるまい。」という感じでした。その後、目的地を変更して無事に着陸をした宇部空港での降機時には、「大変申し訳ありませんでした」と乗客一人一人に深々と頭を下げられていました。「荒天・強風はあなたたちのせいではないんですよ」と思いながらも、他の乗客の手前「ありがとうございました」としかお伝えできませんでした。

私は、この安心感と感謝を伝え切れていないことが気になり、宇部空港から萩・石見空港へ向かうバスの中からANAに感謝の気持ちをメール送信しました。すると夕方、ANAから返信がありました。目的地変更になったことへのお詫び、日頃の指導・訓練が実践できたことを伝えてくれたお礼、当該クルーへ伝えて励みにすること等々、とても丁寧なメールでした。

ANAグループの3万人の社員一人一人が使う口癖に、「あれっ大丈夫？」「自分以外は、皆お客様」「小さいことほど丁寧に、当たり前のことほど真剣に」など、長年先輩から後輩へ受け継がれてきた「ANAの口癖」があるそうです。チーム全体でどう成果を出していくかという会社経営の理念の根底に、「乗客本位」の揺るぎない、そして温かい「ホスピタリティ・マインド」が脈々と流れているのだと思います。

さて、学校・教職員はどうあるべきなのだろう。そして、私たち大人はどうあるべきなのだろう。また、一人の人間としてどうあるべきだろう。更には、人を大切にすることはどういうことだろう…等々、深く考えさせてもらうきっかけになった今も忘れられない貴重な体験です。

